

シュードゾンビと六つの湖

加藤のりや

目次

1章 (10)	1章 (9)	1章 (8)	1章 (7)	1章 (6)	1章 (5)	1章 (4)	1章 (3)	1章 (2)	1章 (1)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
54	49	39	32	24	16	13	9	6	1

2章 (9)	2章 (8)	2章 (7)	2章 (6)	2章 (5)	2章 (4)	2章 (3)	2章 (2)	2章 (1)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
121	109	98	89	84	77	74	65	59

1章(1)

目が覚めた

痛い

何事？

まだ夜中でしょ

横を見た

ぼんやりとしたスタンドの灯りの中

隣で寝ているミーちゃんが 僕の腕を持って 手の甲を齧^{かじ}っている

何事？

力が強い

僕は反対の手でミーちゃんの肩を叩いた

ミーちゃん

ミーちゃんは起きない

ミーちゃん ミーちゃん

反応せず

起き上がって手を振りほどいた

甲に歯型がついている

ミーちゃんは眠ったままだ

噛み足りないのか 伸ばした両腕をゆっくりと動かして獲物を探している

海の底の

イソギンチャク

ガールルル

いびきじゃない

寝言でもない

狂犬病 という言葉が浮かんだ

大丈夫？

返事はない

俺なんか食べても美味しくないよ

耳元で話しかけたら静かになった

静寂

深夜だし

眠いし

寝るか

可愛いから許すしかない

新婚だからいろいろある

覚えておいて 明日の朝 からかってやろう

案外痛みはない

ティッシュペーパーで傷を軽く拭いて目を閉じた

ミーちゃんおやすみ

その夜 黄色い湖に浮かんでいる夢をみた

風はない

夜ではないが太陽は見えない

遠くでバシヤッと何かが跳ねた

レンギョではないか と考えたが根拠はない

目の前から ボコッと頭が現れる

ミーちゃん

ミーちゃんが笑った

僕は急に楽しくなった

ミーちゃん泳げたっけ？

ミーちゃんが首をふる

大丈夫？

それには答えずに ミーちゃんは沈んでいった

待ってよミーちゃん

僕は湖に顔をつけた

視界が悪い

黄色く霞んでいる

ぬるいスープの中にいるようだ

飲んでみようか

口に含んだ

ゴボゴボと喉に入る

どんどん流れこんでくる

止まらない

苦しくはないが止まらない

いくらでも入る

このままいけば飲み干せるかもしれない

そしたら湖に沈んだミーちゃんが見つかるかもしれない

目が覚めた

朝の日差しが僕の体に〈普通〉を注ぎ込む

おはよう

おはよう

大丈夫？

何が？

夜中 苦しそうだったから

覚えてない

夜中に嘸んだからね

誰が？

ミーちゃん

嘸んでないよ

嘸んだよ ホラここ

自分で嘸んだんじゃない

なんで

腹ペコで

そんなわけないじゃん

そんなわけあるじゃん

そんなわけないじゃん

そんなわけあるじゃん

そんなわけないじゃん

そんなわけあるじゃん

水掛け論である

二人は抱き合ってキスをした

1章 (2)

夕暮れの中

通勤電車は揺れる

遠くの空は動かない

朝日と夕日の違いについてぼんやり考えていた

電車を降りて 駅前の道を抜けて

ドアの鍵を開ける

ミーちゃんはいない

忙しいのかな

着替えて横になった

横になると手が少ししびれた

ミーちゃんの歯型

赤くなっているのに むしろ冷たい

手を脇に挟んで温める

少し楽になった

頭がとろんとしてくる

前頭葉がとろんとする

頭の中のソフトクリームがぐにゃつと溶ける

ああ ミーちゃん 帰ってたんだ

カレーの匂いがする

感覚が戻る

向かい合って座る

カレーを食べる

ビールも飲む

テレビはつけない

ミーちゃん 笑わせないでよ

何が

目

目？

白目じゃん

えっ わかんない

いま 白目だったよ

えっ わかんない

とにかく笑わせないで

吹いちゃうから

吹いてもいいんだけどね

あっ ホラまた

ホントに？

ホント

わかんない

らっきょ食べたら

そうなの

わかんないけど

ポリポリポリ

どう

治ったかも

食器片付けとくから 先にお風呂入っちゃえば
うん

ミーちゃんは

服を脱いで ソファーに投げた

スカートはフローリングに捨てた

ブラジャーはテレビにかけて

ああ

色々捨てながらお風呂に行くパターンね

と思ったら リビングを出たところで振り返って

白目

それは わざとでしょ

ミーちゃんがいたずらっぽく笑った

白目はしばらく

我が家のブームになるかもしれない

お風呂から歌声が聞こえる

人魚の歌声

今朝の夢を思い出した

ミーちゃんは人魚だったのかもしれない

泳げない人魚

泳げないけど溺れない

時々浮いてくるし

また沈む

ミーちゃんらしいな

答えらしきものを得て

僕は

ちよつと安心した

1章 (3)

首が傾いている

右に45度ほど 明らかに首が傾いている

ミーちゃん 首曲がってるよ

首？

うん

曲がってないし

曲がってるって

だって傾いてるじゃん

それはさあ

うん

首が曲がってるんじゃないくて 首以外が曲がってるんだよ

宇宙の中でミーちゃんの首だけが真っ直ぐで あとはみんな45度曲がってるってこと

ええ そうですとも

宇宙の労力大変じゃん

解釈じゃん

とりとめがない

僕はミーちゃんの首を真っ直ぐにした

真っ直ぐにすると
目が白目になった

何ゆえに？

ある種の探求心が芽生え 首を斜めに戻してみた
黒目に戻る

真っ直ぐにすると

白目

曲げると

黒目

これどういう仕組み

紐じゃない

紐？

紐を引っ張ると目がぐるんとなるやつ

ごめん それ知らない

さらなる探求心

ミーちゃんの首を反対側に曲げてみた

こっちサイドも黒目ね

痛くない？

別に

よしよし

ゆっくりと真っ直ぐに戻してみる

おおっ

黒目のままだ

治ったじゃん！

紐が緩んだんだね

そういう仕組みなの

さあ

星が綺麗な夜だった

遠くの星

近くの星

新しい星

古い星

もう無くなってしまった星

それぞれの星が無造作に放った光が

今 同時に

僕の網膜にゴールする

宇宙が映り込む

眼球の中に時空が再現される

そんな気がするだけか

僕にはわからない

不吉な風がすつと頬を撫でた

切り裂き 擦れるような音が遠くでした

自転車のブレーキか

僕は窓を閉めてカーテンを引いた

ミーちゃん大丈夫かな

元気は元気だけど

どこオ

僕を呼ぶ声がした

今 行くから

すぐ行くってば

1章 (4)

何かを入れられた
口の中が酸っぱい

効くねえ

ミーちゃんの声

ミーちゃんが笑っている

どうしたの

治った

何が

白目

誰の

ユウ

えっ わかんない

らっきよが口の中で割れた

白目だった？

うん

覚えてない

白目の時は覚えてないもんだよ

意識がなくなるのか

ミーちゃん

ん

うつつたかも

夫婦だからね

ミーちゃんは綺麗に微笑んだ

そうか

そうだよ

どうする

別に

ミーちゃんの説明によると 白目期はそう長くないらしい

慣れてくると〈来るぞ〉がわかるようになる

〈来るぞ〉を感じたら らっきよを口に入れれば

よい（セオリー1）

とのこと

そのあと 首期がくる

曲がってしまった時は考えごとをしているふりで

誤魔化すか 自分で首を反対に曲げてから正しい

位置に戻せばよい（セオリー2）

簡単な整備なのでまずしくじらない

そうなの

治るのかな

さあね

ミーちゃんは 手に持っていたらっきよをポンと頬張った

ポリポリポリ

僕もポリポリポリ

なんとかかなりそうな気もした

1章 (5)

ミーちゃん

何

動物に噛まれたことない？

小学校の遠足でウサギにやられた

最近は？

知らん

熱は？

ない

犬とか猫は？

別に

キノコとか食べた？

キノコ嫌いだって知ってるじゃん

そうだよね

お鍋のエノキは食べるけど

ミーちゃんのあくび

原因調査頓挫

眠い？

眠くはないけど

退屈なんだ

別に

テレビつける

いい

肩揉もうか

うん

凝ってるね

うん

首が曲がるからかな

うん

整体とか行く？

いい

そう

歯医者に行く

歯医者？

うん

虫歯？

入れ歯

入れ歯？

なんで

噛みたくなるから

誰を

マー君とか

マー君？

バイトの子

なんで？

知らん

意地悪されてるの

ううん 逆かも

逆

込み上げてくる

噛みたいって？

うん

欲求？

たぶん

なんで

衝動

マー君って？

バイトの子

どんな？

普通

普通？

普通にカッコイイ

ああ

爽やか

ほほおほ

バスケやってる

学生？

理系

詳しいね

よく話すから

ほほおほ

雲行きが怪しい

なんで嘔みたくなっちゃうんだろうね

衝動

止められない？

衝動だからね

でも嘔まないんだ

うつすと悪いから

白目と首曲がり？

あと 人を嘔む癖

ミーちゃん よく嘔むの？

嘔んだのはユウだけだよ たぶん

なら良かった

ユウは？

俺？

誰か嘔んだ？

ううん

嘔みたくならない？

うん まあ 今のところは

そうなの

ミーちゃんは目を伏せた

あ でもちよつとはそう思う

どんなとき？

電車の中とか

我慢出来る感じ

ハンカチで口を押さえたりする

嘸む気満々じゃん

ミーちゃんの目が輝く

どんな人 嘸みたくなる？

あんまり言いたくない

たとえば

女性かな

どんな？

割と若い人

やっぱり

やっぱりって

気になる人を噛みたくなるんだよ

でも 俺 ミーちゃん噛んでないし

ゾンビはゾンビを噛まないよ

ミーちゃんは頭がいい

ミーちゃんが僕を見つめる

ミーちゃんが僕の腕を掴む

ミーちゃんは僕を見つめながら

僕の腕を噛んだ

ミーちゃん痛いよ

歯が食い込む

段々と強くなる

プツツと穴があくかも

ミーちゃんの顔を見る

ミーちゃんは目を閉じたままだ

痛いよ

ミーちゃんが目を開ける

瞳がキラキラして美しい

ミーちゃんは噛む力を緩め

微笑んだ

僕の腕に並んだミーちゃんの歯型

いつものいたずらっぽい笑顔

ミーちゃんが自分の手を僕に差し出す

僕はミーちゃんの腕をとって同じことをした

歯を立てると

目の奥があったかくなる

体の力が抜けていく

頭の芯が気持ちいい

それでも

暴走はしない

力加減もわかる

ミーちゃんの言うとおりだ

ゾンビはゾンビを本気では噛まない
じゃれあうだけ

子犬と子犬のように

〈擬似体験〉

そんな言葉が浮かんだ

1章(6)

バーレルばかり買う

フライドチキンばかり食べている

口の周りを油でギトギトにして

骨をバリバリ砕く

無言で

ときどき顔を見合わせては目で笑う

〈獣の晩餐会〉

たぶん僕たちは

生きるために食べているのではない

たぶん僕たちは

食べることで

生きていることを実感しているだけだ
獣のように

野生の

ギリギリの

享楽

食べ終わると

それは去って

二人は

普通の

二人になる

テレビを観る

珈琲を飲む

お風呂に入る

そしてまた

相手の手を噛んでみたりする

いつか誰かを本当に噛んでしまうかもしれない
それはフライドチキンのようにか

今は考えたくない

じゃれ合う二人

倫理 衝動 理性 本能

じゃれ合う二人に 夜は優しい

ミーちゃん

ん

子どもどうする

いらない

いいの

うん

そっか

うん

ゾンビだと困るもんね

ゾンビじゃないのはもっと困るし

なんで

絶対噛んでしまう

ああ

うん

悲劇だね

赤ちゃんは我慢出来んでしょ

特別に可愛いからね

極めて美味しそうだし

二人で噛んじゃうかも

ダブルでカブる

親に噛まれたら泣くな

きつと泣くよ

泣いても可愛い

でも悲劇

人間期間ベリーショート

意識ないままゾンビタイム突入

首がグラグラしてるあたりは、ゾンビとしての才能を感じるね

首グラグラの赤ちゃんゾンビ

でも歯がないから安全

まだ立てないから ゾンビ歩きも出来ない

そう言えば俺たち ゾンビ歩きしないね

いかにもすぎるもん

そういう理由？

知らんけど

いずれそうなる可能性はあるかもよ

ほお

どうする？

なるべくお洒落にやりたい

お洒落になるかなあ

工夫じゃん

工夫ねえ

ちょっとした工夫でなんとかなるもんだよ

ミーちゃん

ん

病院行ってみない？

いい

そう言うと思った

なら聞くな

でも

デモもストもない

よくわかんないけど

意味なし

原因がわかって治るかもよ

原因？

ウイルスとか謎の研究所とか悪の組織とか

で

ワクチンとかを作ってそれで治る

映画みたいに

そうそう

バカみたい

でも元に戻るかも

モルモットになりたいの

モルモット？

そう

実験動物

そう

研究のための

そう

隔離とかされて？

当然

檻に入れられる？

24時間モニター監視

プライバシーは？

モルモットには無い

怖いね

怖いよ

沈黙

有害 排除 駆除 撲滅

害虫 害獣 凶悪 ゾンビ

それでもモルモットよりはマシか

見方を変える

柵の外に追い出された者達がいる

そんな仲間はずれの者たちが集い

仲間を増やし続けて

やがて多数派になったとしたら

government of the zombie, by the
zombie, for the zombie

妄想 滑稽 D級ドラマ

仲間はズレにされた者達が仲間を求めて彷徨い歩

く

君も仲間にならないか と

【成功例】

今より生きやすい世の中にしませんか

賛成です

じゃあ噛みますよ

ええどうぞ

ゾンビになっちゃいますけどかまいませんか

ええどうぞどうぞ

では

ガブリ

【失敗例】

今より生きやすい世の中にしませんか

関係ねえし ていうかお前死んでんだろ

人は誰でもいづれ死ぬのです 人ごとではないの

です

ていうかお前 そもそも人じゃねえじゃん

元は人です

知らねえし

話しても無駄なら嘸みますよ
ガブリ

成功確率ほぼゼロ

だからゾンビは銃で撃たれる
裁判も保護も鑑定もない

ちよつと前まで人間だよー

届かない

恐怖心には勝てない

斧で頭を割られる

ちよつと前まで人間だよー

届かない

御陀仏

死んでる設定だから御陀仏も変か

しかも死なない設定だからさらに変か

鉄のドアをロックされる

中には入れない

ちよつと前まで人間だよー

心の声は大概届かない

入れてくれるわけがない

それ以上近づいたら殺すぞ

野蛮なのはどっち

絶妙に恐怖心を煽る設定

ミーちゃんの言う通りだね

あれ ミーちゃん寝てる

そうだね 眠ろう

1章(7)

仕事を辞めた

今のうちに辞めるべきだろうと思った

「症状」は落ち着いている

だから

まだまだやれる気もする

が

そんなことを考えているうちが辞めどきなんだろ

うとも思う

ミーちゃんは何も言わなかった

ふーん だけ

ミーちゃんは余計なことを言わない

普通に支度をして

今日も出かけていった

僕は

ひとり

壁にもたれ

窓を見る

車の走る音

スズメの鳴き声

あれは風の音か

少しの音が

〈静けさ〉を教えてくれる

これからどうしよう

家からは出たくない

YouTubeとか

ゾンビなりの将来設計

アホか

とは言うものの
何もしないと 心が腐る

〈腐敗〉

体も心も腐っていく

ゾンビとはそういうことか

ゾンビは死んでいるのかいないのか

一度死んで蘇ったのか

腐っていくのに 死ねないのか

僕は まだ

生きてはいるが

まあまあ

そんな気がしているだけなのかもしれない

ゾンビだってそんなものかも

今まで生きてきて

一度も

ゾンビに会ったことがない

フィクションの中の作られた存在

けれど大概のものは 見たこともないし 触った

こともない

行ったこともないし 手ごたえもない

けど あると思ってる

イメージとリアルが

混ざり合って整えられて

さもありなんと思ってる

ゾンビがいるとしても不思議ではなく

自分がゾンビだとしてもさほど不思議ではないのかも

それでも

何故自分が 自分たちだけが
と 問いかける

自分が何者であるかが曖昧な上に

何故自分が 自分たちだけが と問いかける

ゆるゆるの地盤の上に柱を立てていく

手を離すと柱が傾く

足元がずぶずぶと沈み込む

こんなところに家を建てられるはずがない

わかっていて 建てようとする

無駄な努力

そんな感じか

答えを見つけない

答えは見つからない

そういうセッティング

横になって天井を見つめる

このまま（引きこもる）しかないのか

まさか自分が引きこもりになるとは

人にはそれぞれ一括りには出来ない事情があつて

それぞれがそれぞれの事情で引きこもるのだから
けど

自分はどういうスタンス？

外に出たっていいんだけどね

皆んなが怖がるといけないからさあ

自主的に家から出ないようにしてるんだよね
いわゆる 優しき だね

うん なるほど

もっともらしい

公式見解

これでいくか

攻めの引きこもり という言葉が浮かんだ

カッコよくなってきたじゃないか

しかし

この期に及んでカッコをつける必要 ありやなし
や

敵が見えない

何に対して抗えばいいのか

どうやっても勝ちはない気がする

あの時ゾンビになっていて本当に良かったと思
います もしあの時ゾンビになっていなかったら今
の自分はなかったと思います

そんなわけない

今の自分ってなんだよ

不幸は極めて厳格に不幸を演出する

いっそのこと 打って出てみてはどうか

街に繰り出し 片っ端から噛みまくる

フライドチキンのようにかぶりつく

取り押さえられて連れて行かれる

きつとニュースになる

知人がコメントをする

隣人がコメントをする

そんな風には見えなかった

キレやすいところがあつたかも

毎朝挨拶してくれる真面目な人

中学時代クラスの中では孤立していた印象

痛くも痒くもない

専門家がコメントをする

芸能人がコメントをする

不可解な犯行と言わざるを得ませんね

人に迷惑をかけて何が面白いんですか

痛くも痒くもない

皆々様のおっしゃることは

ごもつともでございます

土下座でも致しましょうか

形だけではございますが

以上

想定問答集終わり

思考中断

再び外の世界の音が聞こえてきた

葉っぱが擦れる

ザワザワと鳴る

風の仕業

掃除でもしておこうか

洗濯はまだ取り込まなくていいだろう

口が寂しい

自分の腕を噛んでみる

これはこれで少し落ち着く

工夫

このままで済むのだろうか

もっと酷いことになるのだろうか

なるとしたらそれはいつ頃

バレたらどうなる

人を噛んだらどうなる

答えは見つからない

そういうセツティング

ああ そうだ

来月の旅行と食事の予約は

キャンセルしておかないと

倦怠感

車の走る音

スズメの鳴き声

あれは風の音か

1章(8)

外へ出られない

出たくもない

こういう場合

〈普通〉の人は

お酒に逃げるのか

気の利いた奴なら薬物に走るのか

【使用理由】

今を忘れない

辛い現実から逃れたい

そうこうするうちに助けてもらいたい

陳腐な

庶民の

言い訳

溺れたいのか

僕は

溺れたくない

飲み込まれたくない

ゾンビとしての矜持？

笑える

昨晚も湖の夢を見た

湖は黄色く透明で 深く

顔をつけると

底のほうに小さく何か沈んでいるのが見えた

ミーちゃんだとわかる

僕は沈んでいく

やっぱりミーちゃんだ

ミーちゃん

ミーちゃんが目を開ける

ミーちゃんは水底からペラっと剥がれて
浮いてくる

水中で

二人は再会する

ミーちゃんはペラペラ体をくねらせて

僕の周りを

僕を誘うように泳ぐ

待つてよミーちゃん

ミーちゃんが僕の手をとった

二人で湖を泳ぎまわる

嗚呼楽しい

泳ぐのに飽きた僕は

水面を指差した

ミーちゃんは

首を横にふる

腕をとって下に行こうと誘う

僕はミーちゃんの手を振りほどいて

水面に顔を出した

太陽が眩しい

僕は手で顔を拭う

ズルリ

何かが剥がれた

目が覚める

手で顔を触る

立ち上がって鏡に写す

最近 眠りが浅い

体がだるくて

力が入らない

フライドチキンを

大量に食べているが

少しずつ痩せていく

帰ったぞお

ミーちゃんだ

おかえり

ホレ

パーレルを差し出す

臭いが広がる

一本いっとく？

うん

僕はフライドチキンを口に運ぶ

ズルリ

と皮が剥がれ

口からぶら下がる

それを取って

ミーちゃんが自分の口に入れる

ここが美味しいのに

とふぎける

人間も皮が美味しいのだろうか　と僕は思う

猟奇的な

しかし

今の自分には

極めて自然な

感性か

ミーちゃんは　噛み癖大丈夫なの

どうかな

誰も噛んでないよね

うん　まあ

噛みたくなったりする？

するね

我慢してんだ

うん

あの子は

マー君

うん

マー君には言っているから

何を？

君を噛もうとするかもしれないが
それは愛だ

と

マジで

ウソ

ホントは？

突如襲いかかるかもしれないが
拒否してくれ
と
その時は全力で

マー君はなんて？

わかりましたって

で襲ったの

先週

やっちゃった

うん

どうなった

抱きついて

抱きついて？

首を噛もうとしたんだけど

ほうほう

身長差ありすぎて届かなかった

ギリギリセーフか

腕ならいけたかも

反省してない

教訓は得た

教訓でもない気がするけど

気持ちだね

うん

昂ぶるから

うん

理性的に行動出来ない

わかるよ

ゾンビが理性的に行動したら

可笑しいもの

【もしものゾンビ①】

「もし理性的に行動出来るゾンビがいたら」

あなたはもう私から逃げられませんか

今からあなたの腕を噛むので消毒します

これは雑菌による炎症を予防するための処置です
消毒してもゾンビになることにはかわりがないの
でその点お含みおきください

ガブリ

なるほど

ふと思いついた

僕とミーちゃんは

なんだかゾンビのようになっている

しかし

ミーちゃんは僕以外を噛んでいない

僕は一人も噛んでいない

禁欲的 かつ 理性的な

突然変異的 偽にせ(pseudo)／シールド)ゾンビ

なのかも

だから

実は

感染力が極めて弱く

通常では人に うつらない

愛する人にしか うつせない

愛の力がないと うつせない

愛のゾンビ

だったりするかも

ミーちゃんどう思う？

ロマンチックだね

うん

だといいいね

うん

証明出来ないけど

そう？

試す相手がね

そうか

そうだよ

難しいね

難しいよ

【もしものゾンビ(2)】

「噛むけど私 基本毒ありませーん だったら」

私はゾンビです

ゾンビですが愛してる人にしかうつせません

今から私はあなたを噛みますが

それでもし あなたが感染したとしたら

おめでどう

あなたは私に愛されているのです

もし 感染しなかったら

残念！

あなたは私に愛されてはいなかったのです

けれども嘆く必要はないでしょう

あなたは人間のままでいられるのですから

微妙

ロマンチックではないな

どうせなら開き直って

好悪を全面に出すとかもありか

【もしものゾンビ(3)】

「もしもゾンビが面食いだったら」

どけブス

どけブス

あなたは大好き ガブリ

どけブス

どけブス

あなたは大好き ガブリ

どけブス

どけブス

どけどけブスブス

あなたのことは大好きです

ガブリガブリ

いけないな

これはいけない

嘸まれた人は 体に傷

嘸まれなかった人は 心に傷

ゾンビが無口なのは

深い知恵があるのかもしれない

ゾンビが理性的でないのには

合理性があるのかもしれない

とすると

摂理に従い

いずれ僕たちも言葉と理性を失うのか

例外はあるのか

例外はかえって辛いのか

答えが知りたい

1章(9)

近況報告

痩せた

黒目が小さくなってきた

目の周りが黒い

ミーちゃんは

カラコンで黒目を大きくし

お化粧で目の周りの黒ずみを隠し

パングメイクが流行るといいな

とか言いながら

出かけて行く

僕は

化粧というわけにもいかないの

出かける時は

サングラスをかけようと

思っている

ついでにマスクもするか

いや

芸能人みたいで 逆に目立つか

ゾンビの疎外感と絶望感はなかなか厳しく

症状は

緩徐進行性で

考える時間がありすぎる

症状悪化

暗中模索

視界不良

で

ただただ

時間浪費

夕方

帰ってきたミーちゃんの頬が腫れていた

どうしたの

マー君に叩かれた

なんで

嫌がることした

襲ったの

たぶん

叩かなくてもいいのにね

うん

酷いよ

仕方ないよ



残り80ページ

Amazonにて発売中

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/B098GJDHLJ>

オンデマンドペーパーバック 1,760 円 (税込)

Amazonで購入